

～有限会社 東農園の取り組み～ 二毛作で耕地利用率向上を 目指す!



▲有限会社 東農園 代表取締役の箱崎 寿正さん

平成21年6月に農地法の一部が改正され、農地の効率的な利用推進が大きな柱とされたところで、わが国の農地が年々減少している中、国が基本指針として、二〇二〇年までに食料自給率を50%、耕地利用率を108%の461万ヘクタールに引き上げることを目標に掲げ、水田を活用した米粉用米、飼料用米、大豆の作付けをはじめ、二毛作による麦の作付けなど、水田フル活用政策の推進を図ることとしています。

このような高い目標が掲げられる中、平菅波の農業生産法人(有)東農園では、耕地利用率・食料自給率向上を目指し、大規模な水稲栽培に取り組んでいます。東農園は、昭和37年11月に設立され、現在は代表取締役の箱崎 寿正さん(35)を中心とし、コシヒカリ・ひとめぼれを始めとする数種類の水稲や飼料用米、WCS用の稲栽培に勤めています。耕作面積は秋の受託作業を含めると、30



農業生産法人のご紹介

vol.1



▲青々とした一面の小麦(上)は、6月に入ると黄金色(下)に変わりました。

ヘクタールにも及ぶそうです。

昨年からは、市内で唯一、水稲と小麦の二毛作を行う四倉の認定農業者の友人から指導を受け、1ヘクタールに小麦を栽培。初めての試みに若干の不安はありましたが、10アールあたり9俵の収穫と、素晴らしいスタートを切ることができました。東農園では、今年から水稲と麦の二毛作を開始するそう。「ここは砂地なので、水はけも良く二毛作ができやすい地区です。他の農家の方にも、ぜひやってもらいたいですね。」と笑顔で話してくれました。今年は、昨秋の長雨で播種の時期が遅くなったため、生育が少し遅れがちだったそうですが、6月に入るとグングンと背丈を伸ばし、畑一面が黄金色の輝きを見せていました。

収穫した小麦は、播種契約を結んでいる全農に出荷し、刈取後は、友人と合わせ約10ヘクタールに水稲を作付けし、二毛作に挑戦する予定です。

このように意欲的に農業に取り組む寿正さん。「個人の力で農地を守るのは難しいです。基盤整備を通して農地を効率的に集積し、後継者や担い手を絶やさないような体制作りが必要ですね。」と語ってくれました。現在、会社の大黒柱として働く寿正さんは、会社の後継者を育てるためにも、地域の農業者達が協力し合って担い手を育成し、専業農家が自立できる環境を整えることが大切だと言います。

現在花嫁募集中の寿正さん。今後の目標は「会社の永続はもちろんのこと、いずれは地域の農業者を雇用して地域の農業を守っていきたい。」とのことですので、ぜひ良き伴侶を見つけ、地域農業の発展のため頑張ってください。



▲収穫後は水稲を作付けして二毛作を行う予定です。